

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程）

事業者名：社会福祉法人 松阪市社会福祉協議会

※実施内容については、要綱別紙2「介護職員初任者研修における目標、評価の指針」を網羅すること。

研修カリキュラム（要綱別紙1）	
講義・演習（実習）	
1 職務の理解	6時間
(1) 多様なサービスの理解	
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間
(1) 人権と尊厳を支える介護	
(2) 自立に向けた介護	
3 介護の基本	6時間
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	
(2) 介護職の職業倫理	
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	
(4) 介護職の安全	

実施計画				
カリキュラム名・時間数				実施内容
	時間数	うち 通学	うち 通信	
1 職務の理解				1 職務の理解
(1) 多様なサービスの理解	3	3		(1) 研修に先立ち、介護および介護職についての素地の形成、また多様なサービスの理解について促す。
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解について、施設見学を交えて理解を促す。
2 介護における尊厳の保持・自立支援				2 介護における尊厳の保持・自立支援
(1) 人権と尊厳を支える介護	4.5	3	1.5	通学：介護における人権や尊厳の保持、虐待について等、時に具体事例を織り込みながら理解を促す。 通信：テキストを読み、論述式の問題を解答をすることで、理解力等をみる。
(2) 自立に向けた介護	4.5	3	1.5	通学：専門職としての自立および自律、自立支援のための介護方法や介護予防について、時に具体事例を織り込みながら理解を促す。 通信：テキストを読み、論述式の問題を解答をすることで、理解力等をみる。
3 介護の基本				3 介護の基本
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5	1.5		(1) 具体的例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。
(2) 介護職の職業倫理	1.5	1.5		(2) 介護職に求められる職業倫理の必要性について、気づきと理解を促す。
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	1.5		(3) 介護におけるリスクについて、その他予防や対策についての理解を促す。
(4) 介護職の安全	1.5	1.5		(4) 介護職における心身の健康障害およびその管理や予防について、理解を促す。

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	
(1) 介護保険制度	
(2) 障害者総合支援制度及びその他の制度	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	
(1) 介護におけるコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解 6時間	
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	
(2) 高齢者と健康	
7 認知症の理解 6時間	
(1) 認知症を取り巻く状況	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	
(4) 家族への支援	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	時間数	うち 通学	うち 通信	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
(1) 介護保険制度	3	2	1	(1) 通学：介護保険制度に対する理解を促す。 通信：テキストを読み、論述式の問題を解答をすることで、理解力等をみる。
(2) 障害者総合支援制度及びその他の制度	3	2	1	通学：障がい者総合支援制度およびその他の制度に対する理解を促す。 通信：テキストを読み、論述式の問題を解答をすることで、理解力等をみる。
(3) 医療との連携とリハビリテーション	3	2	1	通学：医療との連携とリハビリテーションについての理解を促す。 通信：テキストを読み、論述式の問題を解答をすることで、理解力等をみる。
5 介護におけるコミュニケーション技術	時間数	うち 通学	うち 通信	5 介護におけるコミュニケーション技術
(1) 介護におけるコミュニケーション	3	3	/	(1) 介護におけるコミュニケーションについて、演習を交えながら、理解を促す。
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3	3	/	介護におけるチームのコミュニケーションについて、また、記録の機能と重要性について理解を促す。
6 老化の理解	時間数	うち 通学	うち 通信	6 老化の理解
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	3	/	(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常について、理解を促す。
(2) 高齢者と健康	3	3	/	(2) 高齢者に多い疾病等について、具体例を交えながら理解を促す。
7 認知症の理解	時間数	うち 通学	うち 通信	7 認知症の理解
(1) 認知症を取り巻く状況	1.5	1.5	/	(1) 認知症ケアの理念等について理解を促す。
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	1.5	/	(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理について、理解を促す。
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5	1.5	/	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活について、具体的なケースを示しながら理解を促す。
(4) 家族への支援	1.5	1.5	/	(4) 家族の気持ちや、家族が受けやすいストレス等について、理解を促す。

8	障がいの理解	3時間
	(1) 障害の基礎的理解	
	(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	
	(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	7.5時間
ア	基本知識の学習	10~13時間
	(1) 介護の基本的な考え方	
	(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	
	(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ	生活支援技術の講義・演習	50~55時間
	(4) 生活と家事	
	(5) 快適な居住環境整備と介護	
	(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	
	(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	
	(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	

8	障がいの理解	時間数	うち通学	うち通信
	(1) 障害の基礎的理解	1	1	/
	(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	1	/
	(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	1	1	/
9	こころとからだのしくみと生活支援技術			
ア	基本知識の学習	時間数	うち通学	うち通信
	(1) 介護の基本的な考え方	1	1	0
	(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	2	2
	(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6	3	3
イ	生活支援技術の講義・演習	時間数	うち通学	うち通信
	(4) 生活と家事	6	6	/
	(5) 快適な居住環境整備と介護	6	6	/
	(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	/
	(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	/
	(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	/

8	障がいの理解
	(1) 障害の概念とICFについて等、障がいの基礎についての理解を促す。
	(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識について理解を促す。
	(3) 家族の心理、かかわり支援、家族の介護負担の軽減等の理解を促す。
9	こころとからだのしくみと生活支援技術
ア	基本知識の学習
	(1) 通学：介護の基本的な考え方について理解を促すこと。
	(2) 通学：介護に関するこころのしくみの基礎的理解について促す。 通信：テキストを読み、論述式の問題を解答をすることで、理解力等をみる。
	(3) 通学：介護に関するからだのしくみの基礎的理解について促す。 通信：テキストを読み、論述式の問題を解答をすることで、理解力等をみる。
イ	生活支援技術の講義・演習
	(4) 生活と家事、家事援助の基礎知識と生活支援について理解を促す。
	(5) 快適な居住環境整備と介護についての理解を促す。
	(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護について、演習を交えて理解を促す。
	(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護について、演習を交えて理解を促す。
	(8) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護について、演習を交えて理解を促す。

第1 - 2号様式

(9)入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	/	(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護について、演習を交えて理解を促す。
(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	/	(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護について、演習を交えて理解を促す。
(11)睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	/	(11) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護について、必要に応じて演習を交えて理解を促す。
(12)死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	6	6	/	(12) 終末期介護について、必要に応じて演習を交えて理解を促す。
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	ウ 生活支援技術演習	時間数	うち通学	うち通信	ウ 生活支援技術演習
(13)介護過程の基礎的理解	(13) 介護過程の基礎的理解	5	5	/	(13) 介護過程の基礎的理解について促す。
(14)総合生活支援技術演習	(14) 総合生活支援技術演習	5	5	/	(14) 総合生活支援技術について、事例を用いて演習を行う。
10 振り返り 4時間	10 振り返り	時間数	うち通学	うち通信	10 振り返り
(1)振り返り	(1) 振り返り	2	2	/	(1) 本研修を通じて学んだことについて再認識を行う。
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	2	/	(2) 今後継続して学ぶこと等についての認識をはかる。
追加カリキュラム					
計 (130時間)	計 (130時間)				

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。

※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。

※ 時間配分の下限は、30分単位とする。

※ 項目ごとに時間数を設定すること。

※ 実施内容には、講義内容、演習の実施方法、通信学習課題の概要等を記載すること。(別紙でも可)

※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。